

10月27日～
11月9日は
読書週間

市民 登場

No.772

絵本専門店

ちいさな絵本ショップブックプランターを運営

中谷 章代さん

◆なかに あきよ 大学卒業後、銀行勤務を経て、子育て支援のボランティアに携わる。NPO法人・えほんのお部屋ひまわり畑（香里ヶ丘）の代表理事として一時保育や親子が集まる場を提供するほか、令和4年に絵本専門店・ブックプランターを宮之下町にオープン。図書館司書・保育士・絵本講師資格を持つ。63歳。

心に大切な物語があれば
いつか自分を守り励ましてくれます

ハロウィーンや冬にはクリスマスなど季節の絵本が並ぶ店内に親子がふらりと訪れる。優しい声で話し掛け母親の質問に答えながらおすすめの本を提案する。「買ってくれた絵本がおすすめの本じゃない時の方がうれしいんです。お母さんが子どものことを考えて選ぶ本がいちばんですからね」とほほ笑む。わが子3人の子育てをしながら、育児中の親を支援するNPOの事業にボランティアとして携わった。活動に奔走する中、親子が気軽に集まれる場を自ら作ろうと一時保育や親子で集まれる「えほんのお部屋ひまわり畑」を開室。絵本講師の知人から提供を受けた絵本を並べたことで絵本に興味を持ち始めたが、本来の魅力に気付いたのは親子の絆をテーマにした絵本『ラヴ・ユー・フォーエバー』との出会いだった。「わが子には読み聞かせをする時間もなかったんです。寂しい思いをさせてきたと後悔していた自分の子育てを肯定してもらえた気がし

て鳴咽が止まりませんでした」自身の子育てで果たせなかった絵本を介した親子の時間を提供したいと、3年前に市内で珍しい絵本専門店をオープン。手頃な価格のリサイクル本の販売を中心に行っているのは気軽に絵本を手にとって欲しいとの思いからだ。「子どもたちには家で繰り返し読める自分だけの絵本を手にして欲しいんです。心に大切な物語が残れば、いつか自分を守り励ましてくれますから」。子と向き合う親にも、くつろぎ安心できる場になればと考えている。病弱な母親に代わって小学生の頃から家事をこなしてきた経験から「大丈夫？」って誰かを気に掛けてしまうことが染みついているのかも」と笑う。自ら作った子育て支援の場も絵本店もかつての利用者が今はボランティアスタッフとして支えてくれている。「今後も若いお母さんたちが活躍できる居場所の一つとして支えていきたいですし、何より多くの人に絵本を読みに来てほしいですね」



味見

今月号の表紙写真は東山在住の喜多朝也さんが令和6年11月に山田池公園で撮影。「メジロがちょうど柿をつついて食べていたので、撮影しました。動きが速い鳥にピントを合わせ、きれいに撮れてよかったです。」



自慢の写真・イラストが表紙に!?

枚方の風景などをテーマにした写真・イラストを大募集。▶応募 メールまたは市ホームページの専用フォームに住所・氏名(ペンネーム希望の場合はペンネームも)・年齢・電話番号・メールアドレス、作品の説明・題名を書いて作品データを添付し広報プロモーション課(☐kouhou@city.hirakata.osaka.jp)へ。詳細は市ホームページ参照。

※応募作品は市公式フェイスブックやInstagramで公開します。



専用フォーム
はこちら